

令和3年度 学校評価 年間報告

令和4年1月15日  
生徒会指導部 吉田信明

	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情など）
		3 2 1		
1. 生徒会	・生徒会本部役員生徒に1900人の生徒の代表である誇りと自信を涵養する	3	コロナ禍においても創意工夫により活動することができた。週2回の会議や生徒・学校・地域のために様々な活動を積極的に行ってきた。さらなる責任感の涵養に努めたい。	文化祭 生徒会選挙 入試役員 入学式参列 部活動紹介・体験会
	・生徒会本部役員の自主性を支援する	2	生徒の主体性を尊重する方針に基づき、指導を継続する。各企画で高評価を得た。	体験入学見学ツアー 放課後ゴミ拾い 生徒会新聞発行 歳末助け合い募金
	・生徒会の存在感を強化する	2	生徒会新聞の発行、放課後のゴミ拾いなどを行った。生徒会選挙に向けて積極的な立候補を呼びかけ、新生徒会は18名体制となった。	生徒会新聞発行 生徒会選挙広報活動 生徒会オープンデー
	・発信力を強化し、行事および日常活動についての呼びかけ・報告を頻回に行う	3	放送部と連携し、朝の挨拶についての呼びかけを行った。スクールバスの並び方ポスターを製作。体験入学では朝の案内・「生徒会と話そう」・校内見学ツアーを行った。	バスの並び方ポスター製作 朝の挨拶呼びかけ 文化祭テーマ募集 文化祭テーマ発表 体験入学見学ツアー
	・評議会機能をさらに高め、学校全体の一体化と生徒会活動の強化をめざす	2	バスの並び方ポスターを配布し、クラスに伝達させた。行事を通して活発化を図った。	評議会（6/25）
	・行事などを通して全校生徒の潜在能力を開発し自尊心を養う	2	行事では生徒会が中心となり多くの生徒に活躍の場を提供することができた。	部活動紹介・体験会 文化祭準備
	・外部交流を進め、地域に貢献するとともに、視野と活動の幅を広げる	2	「きさこん」活動が定着化。視野の拡充を感じた。さらに充実を図る。	きさこん高校生記者 赤い羽根募金活動 歳末たすけあい募金
2. 委員会	・各委員会活動を通して、生徒たちに仕事の喜びと責任感を涵養する	2	委員会ごとに特色ある活動を展開。行事での連携を図った。	各委員会の活動
	・委員会委員長の先生方と協力し、組織を整備するとともに活発な具体的活動を支援する	2	委員会のさらなる活発化に協力する。	行動計画書の実施
	・評議会への各委員会委員長生徒の参加を定例化する	3	行事及び全般的活動に対し、委員会サイドからのアプローチを実現した。	評議会に委員長生徒参加
	・「生徒会新聞」を発行して各委員会の活動報告を周知させるとともに委員の意識を高める	2	7月、11月に「生徒会新聞」発行した。発行間隔を短く今後も定期的にメンバーを変えて発行していきたい。	生徒会新聞発行
3. 部活動	・部活動・同好会全体加入率60%、1年生70%を目標とする	2	部活動紹介・パンフレット・入学式後の勧誘活動等、精力的に活動した。コロナ禍の影響を受けながらも加入率は昨年度より増加した。	全体加入率：56% 1年生加入率：67%
	・勧誘活動の強化策を各部と連携して講じる	2	各部との協力により勧誘活動を展開。入・退部届用紙、システムをさらに改善した。	部活動紹介・体験会 パンフレット 入・退部システム
	・「生徒会新聞」を発行して部活動報告を生徒目線で発信し、支援する	2	同好会の活動の特集し、部活動・同好会全体加入率の向上に努めた。	生徒会新聞発行 同好会に取材

4. 行事 運営	・各行事の意義を大切にし、生徒の潜在能力の発揮・開発の場とする	2	コロナ禍の影響を受け行事が縮小されたが創意工夫で各行事の行事の意義を踏まえ、生徒会が中心となり多くの生徒に活躍の場を提供した。	部活動紹介・体験会 文化祭準備
	・安全対策を徹底するとともに、活動制限の中でも最善の企画を模索する	2	昨年度の反省を活かしつつ、コロナ対策の徹底を大切に、企画書や進行表・リハーサルを通して、精度を高めた。	部活動紹介・体験会 文化祭準備
	・円滑で精度の高い企画・運営を実施する	2	昨年度の反省・アンケートの意見をもとに、改善を図った。	部活動紹介・体験会 文化祭準備
	・各行事を学校全体で行う意識・態勢作りを継続する	2	テーマ募集と文化祭ポスターを生徒全員から募った。今後も、生徒を巻き込んだ活動を模索していく。	文化祭準備
	・行事反省に基づき、企画を一から練り直し、改善につなげる	2	コロナ対策として後ろの生徒も見やすいようにモニターを設置し、ステージ上の発表を投影した。	部活動紹介・体験会

(注) 自己評価： 優れている…3 適切…2 改善が必要…1